

# 日本医療通訳協会による実技評価とルーブリックに対する意見

## Evaluation of Practical Skills and Opinions about Rubrics by Medical Interpreting Association of Japan (MIAJ)

高岡由美  
Yumi Takaoka

一般社団法人日本医療通訳協会  
General Incorporated Medical Interpreting Association of Japan

### Abstract

Rubrics have several advantages in both formative and summative assessment. Creating examinations based on rubrics can improve the validity of what examinations measure because rubrics clearly indicate what is being assessed. Additionally, the analytic, systematic, and coherent description of rubric assessment standards enables objective and fair evaluations. A normative rubric for evaluating healthcare interpreting skills can be developed through the following procedures: (1) Establish the final goals regarding qualities such as skills and conduct that a healthcare interpreter should acquire; (2) Specify assessment items, or criteria, for achieving the goals; and (3) Identify assessment standards with graduated verbal descriptions for each criterion. Creating an examination for healthcare interpreting skills and implementing an assessment based on a developed rubric in this way would improve the examination's validity and reliability, and make it feasible for the authorized certifying organizations to standardize the assessment items. A rubric, which indicates the goals and aspects to consider in making judgments, gives learners and healthcare interpreting candidates clear targets to aim for. Wide use of rubrics would enhance training and evaluation of healthcare interpreting skills.

### 要旨

ルーブリックは形成的評価のみならず総括的評価にも有用である。ルーブリックでは「何を評価するか」が明示されるため、それに基づくことは試験内容の妥当性の向上につながる。更に、その分析的な系統性・一貫性のある評価基準により、客観的で公正な評価の実施が可能となる。医療通訳者に求められる技能、態度等の最終ゴールを定め、その達成に向けた具体的な評価項目を挙げ、それぞれに段階的な言葉による評価基準を設定するという過程を踏むことで、1つの規範的な医療通訳技能評価ルーブリックの開発は可能であると考えられる。そのルーブリックに依拠した問題の作成、評価の実施は医療通訳技能試験の妥当性・信頼性を高め、各試験団体の評価項目の統一にもつながる。また、達成すべき目標と評価判定の際に検討される要素を示すルーブリックは医療通訳学習者・医療通訳技能試験受検者の明確な指標となる。今後、医療通訳者育成の場面で、また、医療通訳技能評価の際にルーブリックが広く使われることが期待される。

キーワード：医療通訳技能評価、形成的評価、評価項目

Keywords: Evaluation of Healthcare Interpreting skills, Formative Assessment, Assessment Items

### 1. 日本医療通訳協会による実技評価

当協会による実技評価<sup>1)</sup>は二次試験として一次の筆記試験合格者を対象に実施し、実際の診察場面での通訳を想定した15分間の対面でのロールプレイング形式となっている。合否判定では正確性・忠実性を重視し、医療知識・語学力・通訳力を評価する他、礼儀・態度・服装等も評価項目に含めている。15分という短い試験時間で受検者のパフォーマンスを正しく評価するために1人の受検者に対して2種類の評価票を用意し、多面的に評価をしている。

一つは医療通訳が人の命や生活に直接関わる<sup>2)</sup>、また、医療通訳において正確にメッセージを伝えることは何よりも重要な要素である<sup>3)</sup>という観点から、通訳の「正確性」を最重要視して評価するものである。これは各受検者に用意されたスクリプト中に数種類の下線を施し、各下線部に診断名、数値、症状名等、重要度に応じて重みづけをした点数を与え、誤訳、訳抜け等に従い、予め設定された点数を100点満点から減点して採点するものである。例えば診断

名の誤りは5点、症状名の抜けは2点などとする。このように訳出が不十分であった箇所のチェックは「正確性」の他、「忠実性」「専門性」「一貫性」「適格性」等<sup>4)</sup>の評価にもつながり、その数値化により客観的な評価が可能となる。もう一つの評価は、通訳行為及びコミュニケーション行為をABCの3段階で総合的に評価するもので、上述のスク립トとは別の評価票が各受検者に用意される。この評価票で評価する項目は大きく2つに分かれる。一つはスク립ト上の誤訳、訳抜けのチェックだけでは評価できない「表現力」「訳出の明瞭さ」「流暢度」「訳出のタイミング」「適切なノートテイキング」等、「通訳行為全体に関する評価」である。もう一つは「コミュニケーション行為」に対する評価で、更にそれを1)「態度」「声の聴きやすさ」等を評価する「視覚・聴覚的要素」2)通訳に対する「熱意」「基本的な通訳姿勢」「精神的安定性」等を評価する「感覚的要素」に分けて評価する。これらの評価項目は、厚生労働省「医療通訳テキスト<sup>5)</sup>」に挙げられている評価項目を、「通訳者の立ち位置」等一部を除き、ほぼ網羅するものとなっている。

## 2. ルーブリックの有用性と医療通訳技能評価ルーブリックの作成プロセス

ここでは医療通訳技能試験の内容の妥当性・信頼性及び評価方法・評価基準の適正さにつながるルーブリックについてその有用性を確認し、医療通訳技能評価ルーブリックの作成プロセスを考える。

### 2.1. ルーブリック評価票作成から見えるルーブリックの有用性

筆者は現在、看護専門学校で医療英語の授業を担当しており、ルーブリック評価票を実際に作成し、活用する機会を得た。授業で使用する教科書の各UNITには単元の目標に基づきパフォーマンス課題が設定されている。たとえば「症状の尋ね方を覚えましょう」というUNITであれば、看護師役が患者役に症状を尋ね、患者役が症状を答えるというものである。普段であれば単に学生達のパフォーマンスを観察し、小テストで定着を評価するという形をとっているが、今回はルーブリック票を作成し、パフォーマンス終了後、学生達にそれを使用して自己評価をさせた。ルーブリック票の作成に当たっては先行の2つの実践<sup>6) 7)</sup>を参考にした。その作成手順は以下の通りである。

まずUNIT終了時の達成目標を「症状名、症状の尋ね方、答え方を理解し、英語でやり取りができる」とした。次にその目標の到達度測定には何を評価するか「評価項目」を考え、それを「文法の理解」「症状の尋ね方の理解」「発音」「声の大きさ」「目線」などとした。最後にそれぞれの評価項目に言葉による段階的な評価基準を設定した。例えば「発音」という評価項目については、「正しい発音、イントネーションで、強弱をつけて話せた」「イントネーション、強弱が不十分で日本語のような発音になった」「ほとんど日本語のような発音で話した」などとなる。

このように作成したルーブリックをパフォーマンスの冒頭で提示し、終了後、自己評価で使用した結果、パフォーマンス課題に対して見通しを持ち、より意欲的に取り組む姿勢が学生達に見られるようになった。このようにルーブリックを実際に作成して活用する中で、以下の様なルーブリックのメリット、有用性を確認することができた。

#### 1. 学習者側のメリット

ルーブリックは評価基準を具体化、文章化することで評価の可視化を行っており、目標となる技能習得に必要な項目・要素を学習者が理解し、評価全体の中で自分が現在どこに位置するかを一目で確認できる。このことから今後の努力の方向性が明らかになるとともに、自分の到達度の客観的把握により自己評価能力<sup>8)</sup>が向上する。単元で求められる学習目標が明確になることで、学習者の見通しを持った課題への取り組みが可能となり、学習や授業へのモチベーションが高まり、主体的な学習のきっかけとなる。

#### 2. 指導者側のメリット

(1) 評価基準の段階的文章表記により評価の枠組みが客観性・一貫性を持つものとなり、指導者自身の評価基準も明確になる。「何を評価するか」が明確になることは「何を教えるか」<sup>9)</sup>についての体系的な指針を与え、単元の目標実現に向けた適切な授業設計を可能にする。学習者にとってどのような支援が必要か、どのような力をつけさせたいかが明らかになることで、効果的で学習者の納得のいくフィードバックが実現できる。

(2) 評価項目を分析的に細分化したルーブリックは、系統的・一貫性のある評価基準を示し、主観や印象で評価されがちな態度や技能に関して、指導者側のより客観的な評価<sup>6)</sup>、学習者側の納得のいく公正な評価を可能にする。

### 2.2. 医療通訳技能評価ルーブリックの作成プロセス

次にこのようなルーブリック作成プロセスとアイデアを医療通訳技能評価にどのように活かすことができるかを考える。ルーブリック作成プロセスは逆向き設計に基づくもので<sup>6)</sup>、まずその単元の目標を明示し、次にその目標達成に向けた評価項目・下位目標を設定し、最後に評価基準を文章の形で記述する。それを医療通訳技能評価に当てはめると、1)まず医療通訳者に求められる知識、技能、態度等の最終ゴールを定める 2)次にその最終ゴール達成のために必要な評価項目・下位目標を具体的に設定する 3)最後に各評価項目について評価基準を文章の形で段階的に記述する、という過程を踏むことになり、それにより作成されたものが医療通訳技能評価ルーブリックとなる。このプロセスを以下に更に具体的に述べる。

1. 医療通訳者が目指すべきゴールの設定: 医療通訳に望まれる人材<sup>10)</sup>、また、通訳者に必要な能力<sup>9)</sup>等に関して示唆に富む記載が多くある中、「医療通訳カリキュラム基準<sup>11)</sup>」は医療通訳者の役割、持つべき知識や能力、技能を明示している。更に「医療通訳テキスト<sup>5)</sup>」は、医療通訳者が目指すべきゴールとは質の高い通訳サービスの提供、つまりコミュニケーションとして成功していることであり、そのためには正確で、聞きやすく、話者の意図が表現されている必要があると記載している。

2. 医療通訳の最終ゴール達成に向けた評価項目・下位目標の設定: 「医療通訳テキスト」では通訳者のサービスの質を「通訳行為」「コミュニケーション行為」に分けて通訳パフォーマンス全体を評価するとあり、それぞれに具体的な評価項目を挙げている。「通訳行為」であれば、「正確性・明瞭さ・等価・通訳技能」であり、「コミュニケーション行為」であれば、通訳利用についての説明、通訳者の立ち位置、通訳のタイミング、非言語コミュニケーション、ミスコミュニケーションへの対応等となっており、更に各評価項目には達成すべき下位目標が示されている。「正確性」であれば、「言語的内容を正確に理解し、適切に反映した訳出ができて」「文法的な間違いがない的確な訳になっている」「専門用語を正しく理解するとともに適切な訳出ができて」というものである。

3. 評価基準の段階的文章化: ルーブリック作成プロセスの最後は、上述の評価項目・下位目標の到達度測定のためにはどのような要素についてみる必要があるか分析的に考え、それらの要素を含む評価基準を段階的に文章化することである。例えば「正確性」の下位目標、「言語的内容を正確に理解し、適切に反映した訳出ができて」とについては、その到達度をみるための要素として「リスニング力」「誤訳・訳抜の有無」「情報追加の有無」「表現力」「構文力」「語彙力」などが挙げられる。これらの要素をすべて含めて評価基準を文章化すると、最も高い評価は「漏れなく聴き取り、正確に理解している。誤訳・訳抜け、情報の追加がなく内容を反映した訳出となっている。表現力、構文力、語彙力が高く、的確な訳出をしている」となり以下、それらの要素について「一部、不十分な点のみみられる」「全体的に不十分である」といった内容となる。

同様のプロセスを踏むと、「医療通訳テキスト」に示されている「通訳行為」「コミュニケーション行為」に関するすべての評価項目について、段階的記述による評価基準の作成が可能となる。そしてそれを1つのルーブリック表にまとめたとき、ルーブリックによる評価が系統的で一貫性のあるものであることが一目で理解される。

### 3. 医療通訳技能評価におけるルーブリックの有用性

ルーブリックを用いた評価は、まさに形成的評価の考え方そのものであることから<sup>8)</sup>、ルーブリックは形成的評価に用いられるのが一般的であるが、到達度を評価するものとして総括的評価にも利用可能である<sup>6) 12)</sup>。従って医療通訳技能評価ルーブリックは学習の途中で行う形成的評価だけではなく、総括的な医療通訳技能試験等の評価にも活かすことは可能であり、以下の4点で有用だと考える。

1. 評価の安定性・信頼性の実現: 実技評価では主観的な要素が大きくなるが、前述の通り、ルーブリックはその評価基準に客観性・一貫性があることから、評価者間で誤差が少なく評価が一致するという意味での信頼性(=評定者間信頼性)が高く<sup>8)</sup>、ルーブリックを使用することで公正・適切な評価が行われることが期待される。

2. 試験の妥当性の向上: 規範的なルーブリックによって何を評価すべきかが明確になると、各評価項目を正しく測る試験作成が求められ、その結果、試験内容の妥当性が高まる。例えば「忠実性」に係わる項目を正しく評価するためには、問題文スクリプト中にこの評価項目のチェックポイントとして、発話者の意図の正確な理解とそれを適切に反映した訳出を求める文章を含めることが必要となり、これが試験内容の妥当性を高めることにつながる。具体的には「忠実性」の評価のためには、「曖昧な表現を分かるように訳せたか」「患者を気遣った医師の表現は理解し訳せたか」「患者の不安や葛藤が伝わる訳になったか」等<sup>4)</sup>のチェックポイントを問題文スクリプト中に含める必要がある。

3. 医療通訳技能試験実施団体間の評価項目統一の実現: 規範的な医療通訳技能評価ルーブリックが作成され、それに基づくことで、各試験団体が実施する試験の特徴等を保ちつつも、試験団体間の評価項目の統一はある程度可能になると考える。例えば「コミュニケーション行為」の評価項目として「利用者への自己紹介ができて」「利用者への自己紹介」が1つの評価項目として統一して各試験内容に含められ、評価されるということになる。

4. 学習者への指標としてのルーブリック: ルーブリックにより医療通訳者に必要とされる技能等のゴールとその評価項目・評価基準が明らかになることで、あるべき医療通訳を目指すには、また、医療通訳技能試験の各評価項目をクリアするためにはどのような点で技能等を高めていく必要があるか、それに対してどのような指導が必要かなど、医療通訳学習者とその養成者、医療通訳試験受験希望者に具体的な指標が示され、努力の方向性が明確になる。

以上、医療通訳技能評価ルーブリックの有用性について述べたが、各試験団体は医療通訳者に求められる知識、技能、態度等の最終ゴールについて明確な統一された理解を持ち、それが正しく反映される試験内容、評価方法を考える必要がある。そのためにも規範となる医療通訳技能ルーブリックの開発が必要であると考えられる。複雑多様化する医療現

場や患者のバックグラウンドの存在、学習者のレベル別評価シート作成検討の必要性<sup>4)</sup>等を考えると汎用的な共通ルーブリックの作成は難しい<sup>12)</sup>が、前述した手順を踏むことで1つの規範となる医療通訳技能評価ルーブリックの開発はなお可能であると考えられる。医療通訳技能習得の形成的評価として有益な医療通訳技能評価ルーブリックの開発、使用が、医療通訳技能試験の評価方法の改善につながり、更には医療通訳者の質の維持・向上につながっていくことを期待したい。

#### 4. 結語

ルーブリックは医療通訳者養成における形成的評価・総括的評価の双方で適切な医療通訳技能評価を可能にする。医療通訳者に求められる技能、態度等の最終ゴール、その達成のための評価項目、下位目標を定め、それに言葉による段階的な評価基準を設定するプロセスを踏むことで、規範的な医療通訳技能評価ルーブリックの作成は可能となる。そのルーブリックに依拠することは医療通訳技能試験の妥当性・信頼性を高め、試験実施団体間の評価項目の統一につながるとともに、医療通訳の学習者・指導者の有用な指標となる。

#### 研究資金

本研究に関する研究資金はない。

#### 利益相反自己申告

開示すべき利益相反はない。

#### 引用文献

1. 一般社団法人 日本医療通訳協会 検定試験. <https://www.gi-miaj.org/test>
2. 各種通訳倫理規定の内容と基本理念. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/istk/5/0/5\\_0507/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/istk/5/0/5_0507/_pdf)
3. 医療通訳トレーニングの実践と評価：アクション・リサーチ実施計画.  
[http://jaits.jpn.org/home/kaishi2012/16\\_anazawa.pdf](http://jaits.jpn.org/home/kaishi2012/16_anazawa.pdf)
4. 医療通訳ロールプレイによる技能評価の取り組み.  
[https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2018/182121/201819003B\\_upload/201819003B0007.pdf](https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2018/182121/201819003B_upload/201819003B0007.pdf)
5. 医療通訳テキスト. <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000385181.pdf>
6. パフォーマンス課題とルーブリックで発信力を問う英語授業.  
[https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/contest/kyoiku/no29/29\\_jh\\_p46-63\\_yokoyama.pdf](https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/contest/kyoiku/no29/29_jh_p46-63_yokoyama.pdf)
7. パフォーマンス課題とルーブリック評価で育成する発信する英語力.  
[file:///C:/Users/yumit/Downloads/63%20%E8%8B%B1%E8%AA%9E\\_%E6%BE%A4%E7%94%B0%20\(2\).pdf](file:///C:/Users/yumit/Downloads/63%20%E8%8B%B1%E8%AA%9E_%E6%BE%A4%E7%94%B0%20(2).pdf)
8. 形成的評価としてのルーブリック評価に関するケーススタディ.  
[file:///C:/Users/yumit/Downloads/5\\_%E6%9D%BE%E6%9C%AC%E5%89%9B%E6%AC%A1.pdf](file:///C:/Users/yumit/Downloads/5_%E6%9D%BE%E6%9C%AC%E5%89%9B%E6%AC%A1.pdf)
9. 通訳教育の新しいパラダイム. [http://jaits.jpn.org/home/kaishi2005/pdf/04\\_inou&someya\\_final\\_.pdf](http://jaits.jpn.org/home/kaishi2005/pdf/04_inou&someya_final_.pdf)
10. 多文化共生センターきょうと「効果的な医療通訳者育成プログラムの開発とその評価」.
11. 医療通訳カリキュラム基準. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000209866.pdf>
12. ルーブリック作成ガイド.  
[https://wnpspt.waseda.jp/teacher/wsdmoodle/wp-content/uploads/sites/12/2021/10/20211007\\_rubric.pdf](https://wnpspt.waseda.jp/teacher/wsdmoodle/wp-content/uploads/sites/12/2021/10/20211007_rubric.pdf)

\*責任著者 Corresponding author : 高岡由美 (e-mail: [takaokayumi2114@gmail.com](mailto:takaokayumi2114@gmail.com))